

製品名: CD63 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08430**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	26,35-65(kDa)

抗原情報

遺伝子名	CD63 CD63; MLA1; TSPAN30; CD63 antigen; Granulophysin; Lysosomal-associated membrane
別名	protein 3; LAMP-3; Melanoma-associated antigen ME491; OMA81H; Ocular melanoma-associated antigen; Tetraspanin-30; Tspan-30; CD63
遺伝子 ID	967.0
SwissProt ID	P08962
免疫原	抗血清はヒト CD63 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 121-170

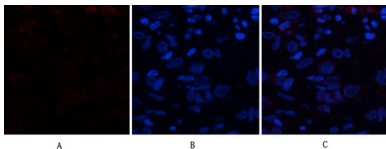
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、膜貫通型 4 スーパーファミリー (テトラスパニンファミリーとしても知られる) のメンバーです。これらのメンバーのほとんどは、4つの疎水性ドメインの存在を特徴とする細胞表面タンパク質です。これらのタンパク質は、細胞の発達、活性化、成長、運動性の調節に役割を果たすシグナル伝達イベントを媒介します。コードされるタンパク質は、インテグリンと複合体を形成することが知られている細胞表面糖タンパク質です。血小板活性化マーカーとして機能する可能性があります。このタンパク質の欠損は、ヘルマンスキー・パドラック症候群に関連しています。また、この遺伝子は腫瘍の進行と関連しています。選択的スプライシングにより、異なるタンパク質アイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2012年4月]、機能: この抗原は、メラノーマ腫瘍の進行の初期段階に関連しています。成長調節に役割を果たしている可能性があります。、その他:ヘルマンスキー・パドラック症候群 (HPS) の患者で、血小板における CD63 の発現欠損が観察されています。ヘルマンスキー・パドラック症候群 (HPS) は、遺伝的に異質で、まれな常染色体劣性疾患であり、眼皮膚白皮症、血小板貯蔵プールの欠乏による出血、およびリソソーム貯蔵欠陥を特徴とします。この症候群は、メラノソーム、血小板高密度顆粒、リソソームなど、さまざまな細胞質小器官の欠陥によって発生します。肺におけるセロイドの蓄積は、HPS 患者の早期死亡の一般的な原因である肺線維症と関連しています。、類似性:テトラスパニン (TM4SF) ファミリーに属します。、細胞内局在:内皮細胞のワイベル・パラデー小体にも見られます。血小板緻密顆粒に位置する。、組織特異性:異形成母斑、放射状成長期原発性黒色腫、造血細胞、組織マクロファージ。、

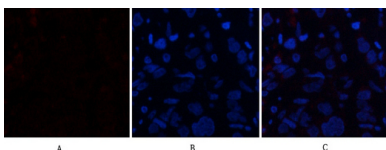
研究分野

リソソーム;

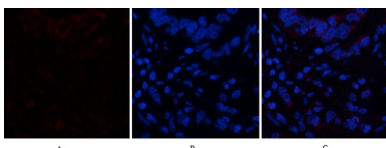
画像データ



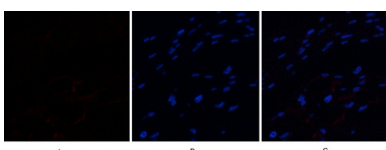
ヒト乳がん組織の免疫蛍光染色。1, CD63 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



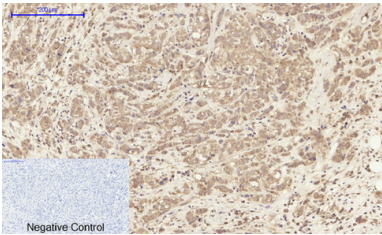
ヒト乳がん組織の免疫蛍光染色。1, CD63 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



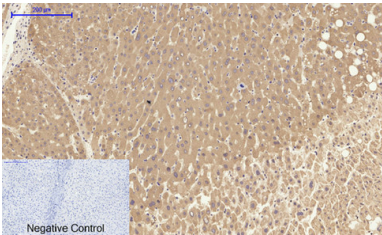
ヒト胃癌組織の免疫蛍光染色。1, CD63 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: 標的。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



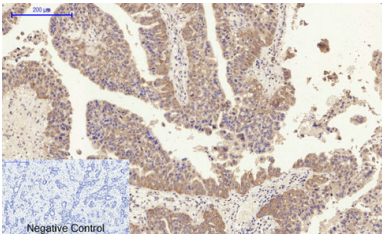
ヒト胃癌組織の免疫蛍光染色。1, CD63 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: 標的。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



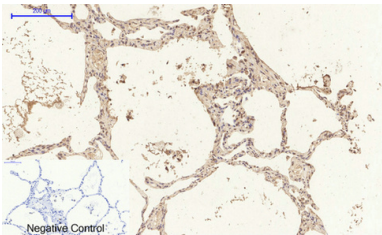
パラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。1. CD63 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



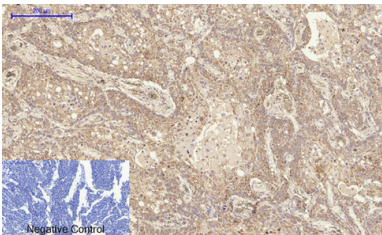
パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. CD63 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. CD63 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. CD63 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. CD63 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。